

海士町エンジン全開計画

《第二期海士町創生総合戦略・人口ビジョン》

2020年3月31日

海士町

○海士町民憲章（昭和45年1月1日）

わたしたちは、美しい自然と豊かな文化遺産をうけつぐ、海士町町民としての自覚をもち、郷土を愛し平和で発展する町を築くためこの憲章を定めます。

- 一 豊かな史蹟と自然の風物を愛し、美しい町にしましょう。
- 一 時代にふさわしい生活基盤を整え、豊かなまちにしましょう。
- 一 お互に人の立場を尊重し、よし習慣を養い、住みよいまちにしましょう。
- 一 青少年の夢と希望を育て、栄えるまちにしましょう。

○海士町民の歌（宮田 隆 作詞 秋山 竜英 作曲）

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 潮路はるかな 日本海 | 2 森の木立は 承久の |
| 群島隠岐の 中の島 | 昔を語る 後鳥羽院 |
| よせくる波もかがやきみちて | 自然と文化 とけあうところ |
| 生産の歌はつらつと | 観光の夢 美しく |
| みよ海士町は ここにあり | いまふるさとの 幸をよぶ |
-
- | |
|---------------|
| 3 心ひとつに むすびあい |
| 理想をめざす 町づくり |
| 港に里に いぶきも若く |
| 躍進の意気 たからかに |
| わが海士町よ 栄えあれ |

はじめに

海士町では、『このままでは無人島になってしまう』との強い危機感のもと、『ないものはない』の精神で、地域課題を地域資源に変え、またピンチをチャンスにと変えながら、島の自立に向けた多くの挑戦を続けてきました。その島民の姿が島の魅力となって多くの交流を生み、更なる挑戦へと繋がっています。このような輝きの連鎖を未来の子ども達に繋いでいくためには、老若男女が手を取り合い、世代を超えて挑戦を続けていく必要があります。

第一期創生総合戦略の策定時には、住民・役場職員の若手有志による「明日の海士をつくる会」が結成され、分野や業種の壁を越えた半年に及ぶ議論を重ねながら、理想の好循環を創り出すための海士町創生総合戦略・人口ビジョン「海士チャレンジプラン」が策定されました。この総合戦略に基づき、2015年10月の策定からこの5年間、海士町では様々な挑戦に取り組んできたところですが、地方創生が叫ばれるこの昨今においても、東京一極集中の流れはむしろ加速しており、海士町でも人口減少になかなか歯止めがかからない状況となっています。

しかし悲観することはありません。この5年間は島内の至るところで世代交代が進むタイミングでもあり、その中で理想の好循環を回すための下地づくりに取り組んできたともいえます。

新たな時代を切り開く持続可能な島を目指し、理想の好循環をフル回転させることをイメージして、今回の第二期創生総合戦略の名称を「海士町エンジン全開計画」としました。これまでのまちづくりの思いを継承しながら、官民が一致団結して心一つにエンジン全開で取り組むことを目指していきます。

1. 第二期創生総合戦略の位置づけ

第二期創生総合戦略「海士町エンジン全開計画」は、2040年までの海士町の総人口2475人を達成することを目指す「海士町人口ビジョン」に基づいた海士町の最上位計画であり、人口ビジョンの実現に向けて、より具体的で戦略的な取り組み内容を示した計画となっています。

第二期創生総合戦略「海士町エンジン全開計画」では、2025年の国勢調査における総人口2337人を目指します。

2. 理想の海士町の姿

第二期創生総合戦略「海士町エンジン全開計画」では、「海士町チャレンジプラン」の思いを継承しながら、以下の理想の海士町の姿の実現を目指します。

○理想の海士町の姿

- ①自然と伝統文化、経済、最先端技術が調和する島
- ②老若男女が手を取り合い、新たな時代を切り開く島
- ③若者たちが集い、循環し続ける島

○理想の海士町を実現するための合言葉

「一緒にやらあや！」「いつでも帰って来いな！」

3. 第二期創生総合戦略の基本目標

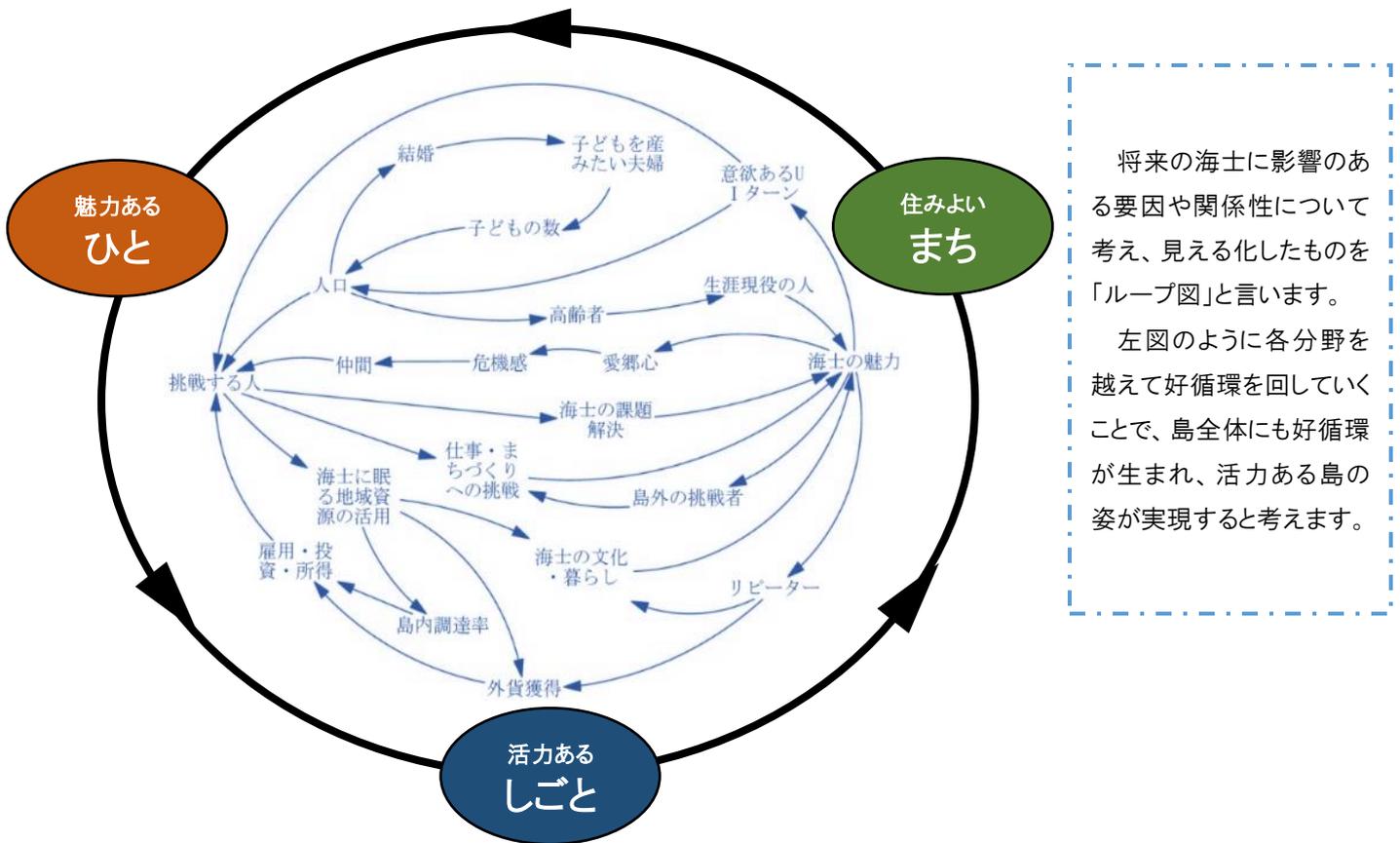
海士町の生き様である「ないものはない」の価値感を大事にしながら、理想の海士町の姿を実現するための目標を下記のとおり定め、この目標の達成に向けて、**2024年度までの5年間**、集中して取り組みます。

基本目標1 **海士ならではの「住みよいまち」を整える** —自然と文化 とけあうところ—

基本目標2 **海士ならではの「魅力あるひと」を育む** —躍進の意気 たからかに—

基本目標3 **海士ならではの「活力あるしごと」を生み出す** —生産の歌 はつらつと—

この好循環をエンジン全開で回しながら、理想の海士町の姿の実現を目指します。



将来の海士に影響のある要因や関係性について考え、見える化したものを「ループ図」と言います。左図のように各分野を越えて好循環を回していくことで、島全体にも好循環が生まれ、活力ある島の姿が実現すると考えます。

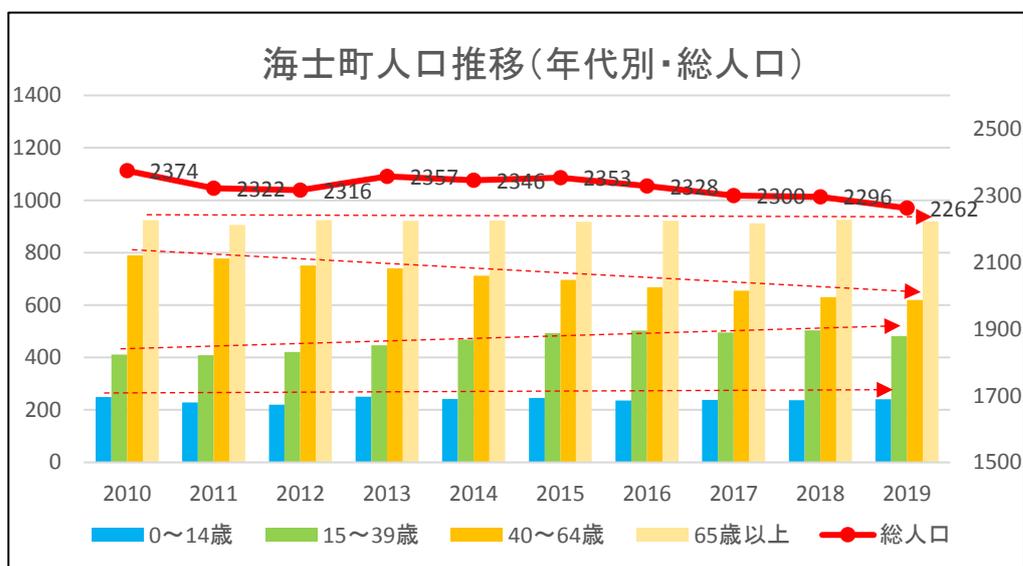
4. 第二期創生総合戦略の数値目標

2025年の国勢調査における総人口2337人を達成し、その後の人口増加を実現していくためには、子どもの自然増、若者の社会増を実現することが特に重要です。3つの基本目標の好循環を生み出すことで達成される数値目標を下記のとおり定めます。

- ★0歳から14歳までの子どもの数 237人(2019) → 270人(2024)
- ★15歳から39歳までの若者の数 504人(2019) → 524人(2024)
- ★社会増減の数 年間+2人(直近5年間平均)
→ 年間+20人程度に改善(2024年度までに)

5. 人口の現状分析

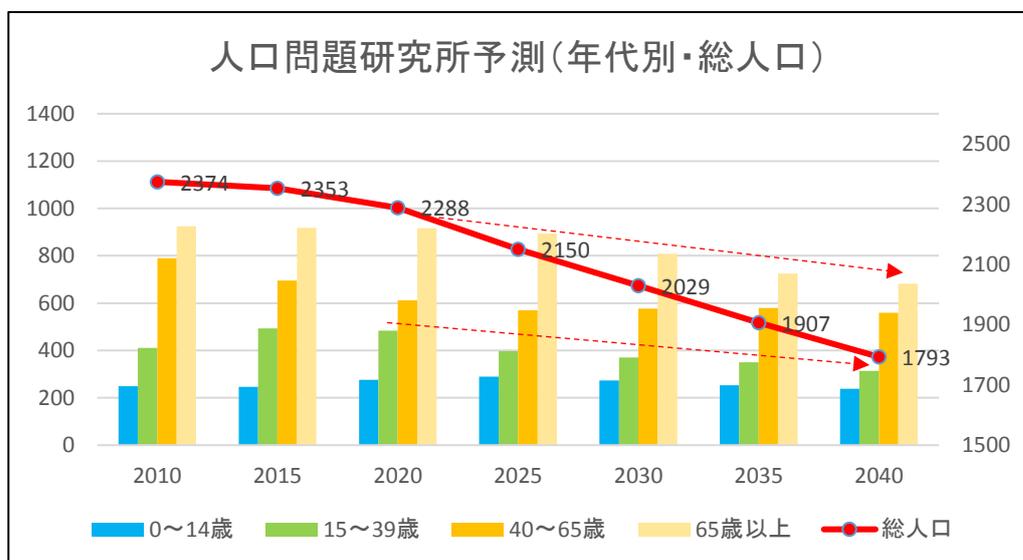
①海士町の人口動向の現状(住民基本台帳に基づく人口)



2010年から2019年までの人口動向を見てみると、海士町では、これまでの産業政策による雇用の創出や、島前高校魅力化プロジェクトによる生徒、教員増などにより、人口減少は最小限に留まっており、国勢調査での人口は、2010年の2374人から2015年の2353人と、21名の減少に留まっています。

年代別でみると、15～39歳の年代はむしろ少しずつ増えてきています。若者の定住に伴い、結婚や出産も増え、0～14歳までの年代も減少が止まり、横ばいで推移しています。65歳以上の年代も横ばいで推移している一方、40～64歳の年代は少しずつ減少してきていますが、2010年頃から人口の多い団塊の世代が65歳以上の年代にシフトする時期でもあるため、その分40～65歳の年代が少なくなっているものと思われます。

②国立社会保障・人口問題研究所による人口予測(2015年までは住民基本台帳に基づく人口)

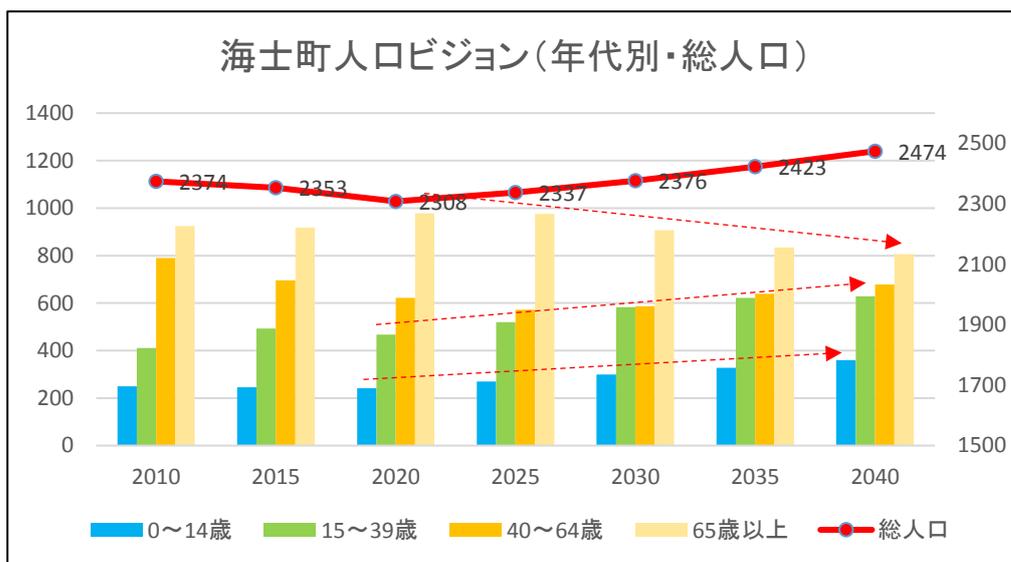


国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の人口予測では、2025年あたりから15～39歳の年代、65歳以上の年代の人口が減少する傾向となっています。

15～39歳の減少は、これまでの少子化や若者流出による影響によるものと推測されますが、この年代の減少は以後の少子化や担い手不足に繋がるなど、人口減少に直結することになります。

65歳以上の減少については、団塊の世代の自然減、社会減によるものでありますが、海士町の商工業や一次産業、伝統文化を守ってきた世代でもあります。これまで島を支えてきた事業所の廃業や伝統文化の衰退、医療福祉の不安などによる島外流出など、様々な面で地域の衰退に繋がる可能性があります。

③海士町人口ビジョンによる年代別人口推移(2015年までは住民基本台帳に基づく人口)



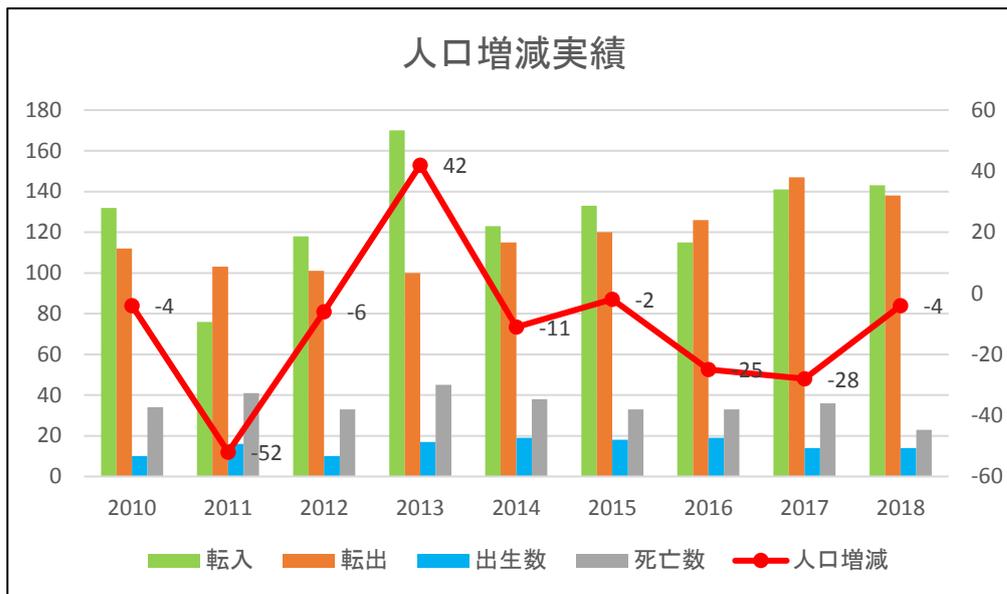
海士町人口ビジョンと社人研の予測で大きく違うのは、0～14歳、15～39歳の年代の人口増減です。

海士町ではこれまでも、全国に先駆けて一点突破型の産業振興や隠岐島前高校を基軸とした教育魅力化などの取り組みによって若者の移住増を実現してきており、この勢いを今後も続けていくことで、持続可能な島が実現すると思います。

今後若者のさらなる人口増を実現していくためには、産業、教育、福祉、集落活動など、あらゆる分野において横断的に取り組む必要があります。また都市部からのリターンはもちろん、出郷者をターゲットとしたリターンへのアプローチや関係づくりも必要となってきます。

またこれまで伝統文化や商工業、一次産業を守ってきた65歳以上の年代については、医療福祉の充実や、若者への事業の継業や文化の継承、生涯現役のための一次産業の基盤づくりなど、島外への流出を抑えつつ、役割を持って元気に活躍してもらおう体制づくりが必要です。

④自然増減(出生・死亡)及び社会増減(転入・転出)の推移グラフ

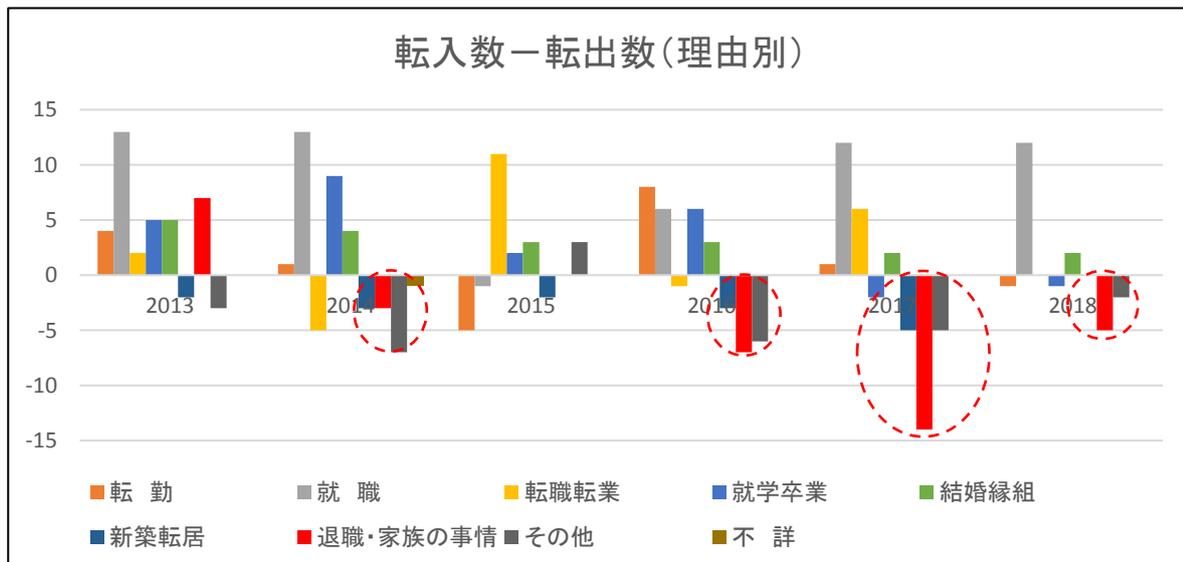


社会増減については、転入数、転出数いずれも毎年100～140人程度で推移しており、転入数が多かった2013年を除き、何とか均衡を保っている状況です。

一方で転入と転出の数に差がないということは、海士町での各事業が拡大、成長しておらず、転勤や転職による穴埋めは出来ていても、新たな雇用の創出による転入増には繋がっていないことも表しています。

今後出生数が死亡数を上回ることは考えにくく自然増が見込めない中で、人口減少に歯止めをかけるためには、社会増を実現していくことが重要です。

⑤転入、転出の理由について

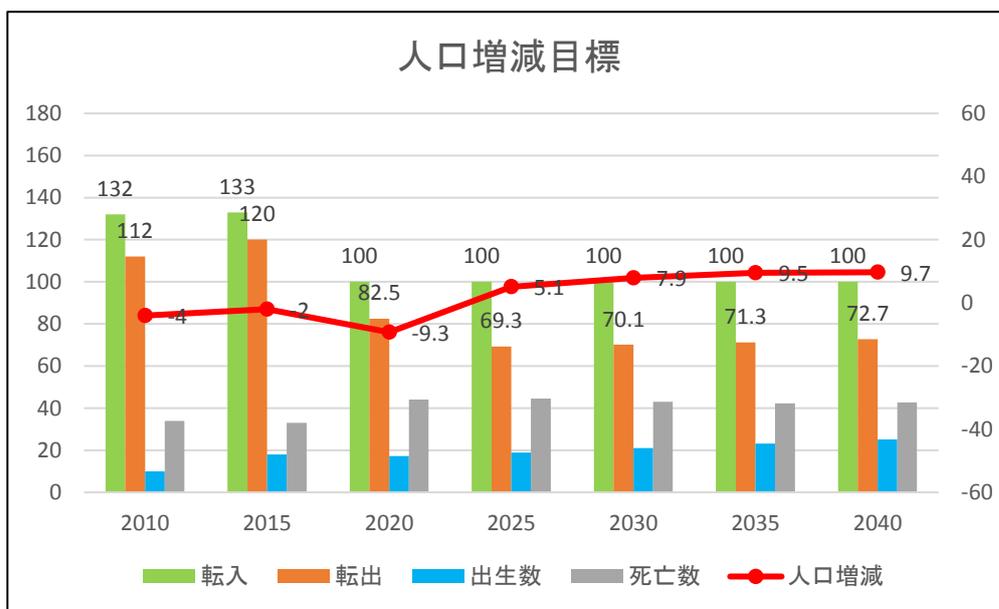


上のグラフは、理由別に転入数から転出数をひいた数を表示しています。「転勤」や「就学卒業」など、理由別で集計した時に転入数と転出数に差がない場合は、転入と転出のバランスがとれていることになり数字も小さくなりますが、転入と転出の人数や理由が大きく異なるなどバランスが崩れた場合は、その差が数字となって現れます。

ここ近年の傾向としては、「退職・家族の事情」「その他」を理由に転出している数が多く、その穴埋めとして「就職」や「転勤」「転職」による転入が増加しているように推測されます。

「退職・家族の事情」「その他」といっても様々な事情が考えられますが、そうした理由を一つひとつ丁寧に分析しながら対策をとらなければ、転出を抑えることはできず、人口の維持や増加は見込めません。

⑥人口ビジョンにおける自然増減(出生・死亡)及び社会増減(転入・転出)の推移グラフ



人口を増やすためには社会増の実現が重要ですが、そのためには転入数に対して、いかに転出数を抑えていくかを考えていく必要があります。

そのためには、新規事業及び既存事業の拡大による雇用の創出、島内での事業継承などによる若者の確保を行っていく一方で、そうした若者の所得向上や処遇改善、コミュニティ支援も含め島での暮らしの価値を高めていく取り組みを行うなど、官民が一体となって転出数を少しでも抑えていく努力も必要です。

6. 創生戦略

《基本目標1》

海士ならではの「住みよいまち」を整える —自然と文化 とけあうところ—

【現状と課題】

- 結婚や子育てに対する不安により、晩婚化と少子化が進んでいます。
- 福祉人材の不足によるサービスの低下や継続への不安から、高齢者が島外の家族の近隣施設等に入居する流れが進んでいます。
- 医者や看護師などの医療人材の不足により、健康や医療への不安も大きくなっています。
- 町内で空き家が増加する一方で住宅は不足し、町営住宅等の老朽化も問題となっています。
- 海士町の持つ地域の魅力や伝統文化、営みを継承する人が減少する一方で、海や山は手つかずとなり環境負荷も高まりつつあります。

海士ならではの「住みよいまち」を整えるための政策①

若者が安心して結婚し子育てができるよう、島ならではの結婚・子育て環境を整えながら、「海士まるごと安心家族」の実現を目指します。

【具体的な施策】

- ・海士町すこやか子育て支援事業(第5期海士町エンゼルプラン)
 - 基本目標1 安心して子どもを産み育てられる環境づくり
 - 基本目標2 親子育ちを見守り支える地域づくり
 - 基本目標3 健やかに子どもを育むための島づくり
 - 基本目標4 若者の希望を叶えるまちづくり

【重要業績評価指標(KPI)】

★結婚した夫婦の数

8組(2018) → 15組(2024)

★結婚した夫婦の平均年齢

男33歳・女32歳(2015年) → 28歳(2024)

★1年間に生まれる子どもの数

12人(2018年) → 20人(2024)

★海士町の子育てや教育環境に満足している割合

43.6%(2017) → 50%以上(2024) 海士町わがコト・わがコト調査にて調査

【関連計画】

海士町住みよいまちづくり計画

第5期海士町エンゼルプラン(子ども・子育て支援事業計画)

海士ならではの「住みよいまち」を整えるための政策②

年齢や障がいなどでわけ隔てることなく、お互いに人格と個性を尊重し合いながら、共に生きる社会の実現を目指します。

【具体的な施策】

- ・福祉人材確保事業(LOVE AMAプロジェクト)
- ・LOVE AMA TOURの実施(2回)
- ・島の福祉留学(学生の島体験事業)の実施
- ・福祉コーディネーターの配置(1人)
- ・離島福祉サミットの開催

【重要業績評価指標(KPI)】

★福祉事業所の新たな雇用数(補充は除く)

計画期間中に新規5名(諏訪苑)

計画期間中に新規ケアマネージャー3名(海士町社会福祉協議会)

計画期間中に新規看護師1名(福来の里)

★福祉事業所での相談員の数

計画期間中に新規相談員2名(GHあまの里)

計画期間中に新規相談員2名(さくらの家)

★福祉シェアハウス「チエダッテ」に住む福祉人材の数

毎年3名を確保

【関連計画】

海士町住みよいまちづくり計画

第4期海士町地域福祉計画／第5期海士町障がい者プラン

海士ならではの「住みよいまち」を整えるための政策③

島内外との交流を続けながら、島の環境を活かした健康づくりと持続可能な医療体制を確立します。

【具体的な施策】

- ・医療人材確保プロジェクト(医師来島ツアー等の開催及びネットワークづくり)
- ・患者目線に立った医療環境の整備
- ・子どもから高齢者までを対象とした健康づくり事業
- ・各種がん検診や特定健診等の受診率向上への取り組み
- ・外部機関との連携による認知症予防対策事業の充実
- ・職域における健康相談の強化
- ・生活習慣の改善及び糖尿病対策への取り組み

【重要業績評価指標(KPI)】

★海士診療所で働く職員の維持

計画期間中に医師3名を維持

計画期間中に正規看護師10名を維持

★70歳未満の死亡数

5.2人(2014-2018の5年平均) → 3.6人(2020-2024の5年平均)

★特定健診(40歳以上70歳未満)の受診率

44%(2018) → 60%(2024) 特定検診実施計画より

【関連計画】

海士町住みよいまちづくり計画

第4期海士町地域福祉計画／健康あま21推進計画

海士ならではの「住みよいまち」を整えるための政策④

誰もが安心して暮らせるよう、時代にふさわしい住宅環境や生活基盤を整えます。

【具体的な施策】

- ・各種住宅整備、空き家バンク制度
- ・「空き家対策協議会(仮称)」の設置と空き家活用方法の検討
- ・町営住宅等の老朽化対策
- ・生活交通における利便性の高い交通手段の確保と構築
- ・役場庁舎整備プロジェクト

【重要業績評価指標(KPI)】

★空き家活用物件数(累計)

32戸(2018) → 38戸(2024)

★町営住宅等物件数(累計)

179戸(2018) → 185戸(2024)

【関連計画】

社会資本総合整備計画／海士町地域防災計画／海士町空家等対策計画(案)

海士町国土強靱化地域計画(案)／海士町地域防災計画／庁舎建設基本計画

海士ならではの「住みよいまち」を整えるための政策⑤

地域資源を活用した再生可能エネルギーの普及促進を図りながら
環境負荷を下げ、時代にあった島の暮らしを実現します。

【具体的な施策】

- ・太陽光発電、薪ストーブなどの再生可能エネルギーの活用、普及促進
- ・ゴミ焼却量の削減等による、環境負荷の低下

【重要業績評価指標(KPI)】

★清掃センターでのゴミの焼却量

777トン(2018) → 600トン(2024)

★清掃センターでの灯油使用量

3700リットル(2018) → 3000リットル(2024)

★太陽光発電設備の設置数(累計)

28件(2018) → 35件(2025)

★薪ストーブ、ボイラーの設置数(累計)

15件(2018) → 25件(2024)

海士ならではの「住みよいまち」を整えるための政策⑥

島の自然環境や伝統文化、営みを発展させながら、美しいまちを次世代に
継承します。

【具体的な施策】

- ・里山再生資源化プロジェクト
- ・自然環境や伝統文化、景観の保全活動への支援
- ・集落支援活動、各種イベントの開催

【重要業績評価指標(KPI)】

★身の回りの自然環境が豊かと感じる住民の割合

70%(2017) → 70%以上を維持(2024) 海士町わがコト・わがトコ調査にて調査

★地域の一員であるという感覚をもつ住民の割合

37%(2017) → 40%以上を維持(2024) 海士町わがコト・わがトコ調査にて調査

★海士町は安心してすみ続けられる町に向かっていると思う住民の割合

50%(2017) → 50%以上を維持(2024) 海士町わがコト・わがトコ調査にて調査

【関連計画】

海士町景観計画／海士町景観条例／海士町自然保護条例

【現状と課題】

- 海や山などの海士ならではの原体験が不足している子どもや大人が増えつつあります。
- 少子化に加え島前各中学生の島前高校への進学率が低下しており、島前高校の生徒数も減少傾向となっています。
- 若者の担い手不足により、島の活力が低下しています。
- 島内外での繋がりや関係性が薄くなりつつあり、連携も弱まってきています。

海士ならではの「魅力あるひと」を育むための政策①

島内外での交流を通じてふるさとの良さを掘り起こしながら、人間力溢れる「海士っ子」を育む環境を整えます。

【具体的な施策】

- ・島の子育て魅力化プロジェクト
 - ・海士町小中教育魅力化プロジェクト(海士町親子島留学、ICT環境整備等)
 - ・図書館活動、文化活動、自然体験活動、公民館活動の推進
- 「親子活動支援、地域との交流、伝統・文化の継承」を柱に事業展開していきます。

【重要業績評価指標(KPI)】

★島育体験に参加した家族数

6家族(2018) → 12家族(2024)

★アドベンチャーキャンプへの島外からの申込み数

10人(2018) → 15人(2024)

★ダッシュ村参加人数(大人・子ども)

大人61人 子ども134人(2018) → 大人80人 子ども160人(2024)

【関連計画】

海士町教育魅力化宣言／島まるごと図書館構想／海士町教育大綱

海士ならではの「魅力あるひと」を育むための政策②

地域や世界と繋がりながら、島内生にも島留学生にも魅力ある高校を実現し、意志ある未来の担い手を輩出します。

【具体的な施策】

- ・島前教育魅力化プロジェクト(島留学の推進、隠岐國学習センターによる学習支援等)
- ・島前高校の卒業生組織「家督会」での交流イベントの開催や、島体験プログラム「大人の島留学」の推進による、卒業生や出郷者との関係づくり
- ・国際協力機構(JICA)や国際協力推進協会(APIC)との連携による開発途上国との国際交流を通じた相互の人材育成

【重要業績評価指標(KPI)】

★島内生の島前高校進学率

43%(2018) → 70%以上(2024)

★島前高校推薦出願者数

37人(2018) → 64人以上(2024)

★大人の島留学体験参加人数

0人(2019) → 20人(2024)

★家督会(卒業生会)参加人数

100人(2019) → 200人(2024)

★JICA、APICと連携した国際事業もしくは研修で講師を務めた地域住民の数

17人(2019) → 30人(2024)

【関連計画】

第3期隠岐島前教育魅力化構想

海士ならではの「魅力あるひと」を育むための政策③

島外からのUターンが島で挑戦しやすいよう環境を整え、島の担い手確保につなげます。

【具体的な施策】

- ・島の人事部構想による人材確保(AMAホールディングス)
- ・マルチワーカー制度(離島ワーホリ)、島食の寺子屋による担い手育成
- ・新規一次産業従事者の発掘と育成
- ・特定地域づくり事業組合の設立と島内事業所への人材派遣

【重要業績評価指標(KPI)】

★離島ワーホリ参加人数

54人(2018) → 100以上(2024)

★島食の寺子屋参加人数

2人(2018) → 10人(2024)

★特定派遣組合員の数

0人(2019) → 12人(2024)

【関連計画】

海士町観光基本計画

海士ならではの「魅力あるひと」を育むための政策④

「ないものはない」価値感を島内外に広げながら、関係人口や交流人口の構築や仲間づくりを行います。

【具体的な施策】

- ・あまコミュニティチャンネルやICTの活用、「ないものはない」特設ウェブサイト等による戦略的な情報発信
- ・しゃばらん会補助金等による住民主体の活動支援
- ・島まるごとデータ活用を目指す海士町版RESAS構築・活用事業
- ・外部有識者による「海士町経営特別補佐官チーム」の活用

【重要業績評価指標(KPI)】

★「ないものはない」特設ウェブサイトへの年間閲覧数

0件(2019) → 86000件(2024) 参考：海士町役場サイトトップページ閲覧数 171,183 件

★しゃばらん会補助金活用団体数

13団体(2019) → 10団体以上を維持(2024)

★海士町版RESASの活用により生まれた官民連携プロジェクトの数

0件(2019) → 5件(2024)

★「ないものはない」生き方に共感する住民の割合

62%(2017) → 70%以上(2024) 海士町わがコト・わがトコ調査にて調査

★住民の意見が行政に反映されていると思う住民の割合

35%(2017) → 50%(2024) 海士町わがコト・わがトコ調査にて調査

【現状と課題】

- 人口減少が進む中、外貨を稼ぎ家族で生活できる産業が未だ十分に育っていません。
- 今後廃業の可能性のある宿泊業が多く、観光客数の受け入れが難しくなっています。
- 島内事業所の衰退や廃業に伴い、島外への依存度が高まりつつあります。
- 地域経済への不安から民間事業者の活力が低下しています。

海士ならではの「活力あるしごと」を生み出すための政策①

島にある地域資源を戦略産品として位置づけ、新技術の研究開発・導入により生産体制を整えながら、国内外に向けた販路拡大を支援していきます。

【具体的な施策】

- ・いわがき春香、CAS商品、隠岐牛等の更なるブランド化推進と拡大支援
- ・みかん、本気米、ぶどう(ワイン)、大敷定置など、新たな取り組みへの支援
- ・集落営農組織の立ち上げ、共同利用による農地、農業用施設の維持管理の推進
- ・持続可能な一次産業構築に向け、新技術やICTなどの積極的な導入による環境整備

【重要業績評価指標(KPI)】

★いわがき春香出荷個数

27万個(2018) → 153万個(2024)

★CAS商品売上

2億1千万円(2018) → 4億円(2024)

★隠岐牛出荷頭数

子牛 211頭(2018) → 300頭(2024)

肥育牛 241頭(2018) → 348頭(2024)

★崎みかん生産量

0.3トン(2018) → 28トン(2024)

★本気米生産面積及び生産量

1.15ヘクタール／5トン(2018) → 5ヘクタール／20トン(2024)

★海士ぶどう収穫量(もしくは海士ワイン製造量)

700キロ(2018) → 4000キロ(2024)

★大敷定置水揚量

81トン(2018) → 160トン(2024)

【関連計画】

浜の活力再生広域プラン／海士町離島漁業集落活動促進計画
地方創生推進交付金実施計画

海士ならではの「活力あるしごと」を生み出すための政策②

島を守り、島を繁盛させる新たな観光の仕組みづくりを構築していきます。

【具体的な施策】

- ・ホテル魅力化プロジェクト、島宿によるブランディング事業
- ・島のバックヤード再生プロジェクト
- ・滞在型エリアのゾーニング(隠岐神社)
- ・島会議、俳句ツアー等、新たな旅行業での集客
- ・隠岐ユネスコ世界ジオパーク拠点の整備及び活用
- ・キンニャモニャセンターを活用した「おもてなし空間」の創出

【重要業績評価指標(KPI)】

★マリポートホテル海士での宿泊客数

9334人(2018) → 10271人(2024)

★島宿での宿泊客数

969人(2018) → 1000人(2024)

★外国人宿泊客数

112人(2018) → 1000人(2024)

★リネンサプライ拠点での取扱宿泊施設数

6カ所(2018) → 10カ所(2024)

★島会議、俳句ツアー参加人数

222人(2018) → 250人(2024)

【関連計画】

海士町観光基本計画／隠岐ユネスコ世界ジオパーク全体構想

海士ならではの「活力あるしごと」を生み出すための政策③

民間の新たな挑戦を支援し、地域資源と人材を活用した新たな仕事づくりと
島内事業者の起業・継業を図りながら、島の持続可能な経済循環を実現します。

【具体的な施策】

- ・AMAホールディングス、特定地域づくり事業組合
- ・島内の地域資源を活用して稼ぎに繋げる事業所や生産者への支援(島内経済循環づくり)
- ・ふるさと納税の運用強化による経営事業体の育成と基盤強化(海士町未来投資基金)
- ・島内事業所における起業・継業支援と経営安定化を図る民間経営支援プロジェクト

・役場職員による半官半Xの働き方推進

【重要業績評価指標(KPI)】

★派遣組合員の数

年間12人を確保(2024)

★しゃん山(農産物直売所)に新規登録した生産者の数

年間50万円未満の生産者:計画期間中に10人

年間50万円以上の生産者:計画期間中に6人

★ふるさと納税の金額

約3千万円(2018) → 3億円(2024)

★ふるさと納税の人数

1176人(2018) → 10000人(2024)

★島内事業所における起業や継業の数

起業0件、継業1件(2019) → 計画期間中に起業5件、継業3件(2024)

★建設事業発注額

単年12億円以上維持(2024)

★地方債残高

計画期間中におおむね100億円以下(2024)

★実質公債比率

計画期間中に18%以内の持続(2024)

★地方交付税獲得指数

計画期間中、1km²当たり交付税県内1位(2024)

★半官半Xの働き方に挑戦する町職員の数

計画期間中に10名(2024)

【関連計画】

海士町小規模企業振興基本計画／経営発達支援計画

投資事業実施計画／公共施設個別計画／各種補助金実施要綱等

かよ
かよの
し、は
し、

島根県



隠岐國

海士町

(補足資料)

第一期海士町創生総合戦略「海士チャレンジプラン」における人口ビジョン

国立社会保障・人口問題研究所によると、海士町は 2040 年に下記のような人口動態となることが予想されている(2010 年時点)。

	2010 年国勢調査	2040 年の推計
総人口	2,374 人	1,416 人
生まれる子どもの数	11 人	8 人
生産年齢人口	1,201 人	624 人
高齢化率	39%	46%

このような予測が現実になった時の結果として、今の海士町の活力の維持は困難となり、次のようなことが引き起こされると予想される。

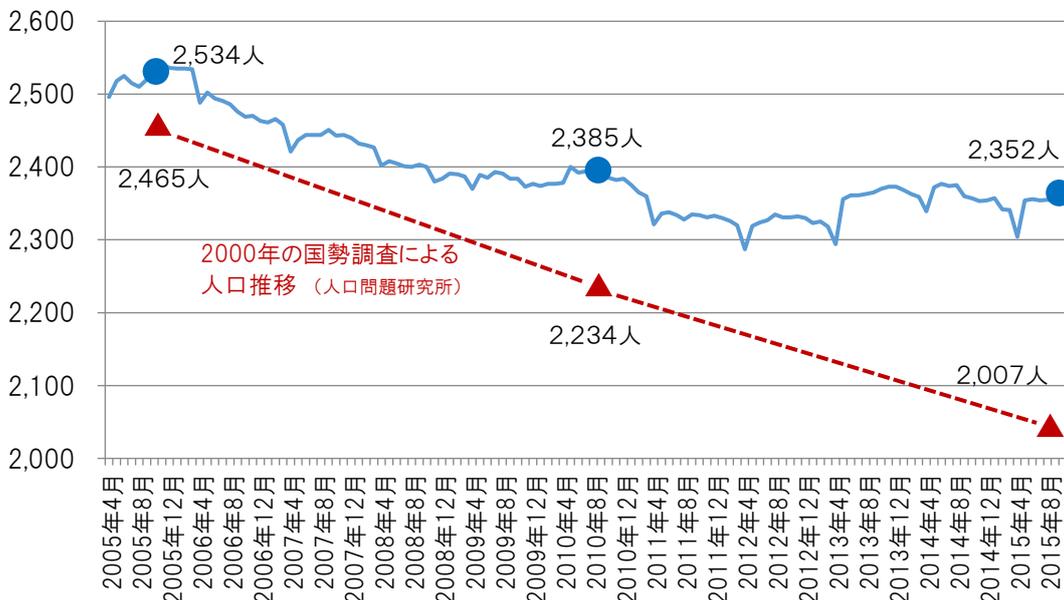
- 現在2校ある小学校は1校に統合
- 地元生徒数の減少により、これまでの魅力化プロジェクトの甲斐もなく、隠岐島前高校は廃校
- 高校の廃校に伴い、生徒だけでなく家族ごとの転出が増加し、家族連れのUターンが減少
- 高齢者を支える生産年齢人口の不足による高齢者福祉の崩壊
- 人口減少に伴う行政サービスの低下
- 祭りなどの地域行事や伝統文化の衰退

なりゆきのままでは、なだれ現象によりすべてが崩壊する暗い未来が待ち受けている。しかし、海士町はこれまでも、なりゆきの未来を変えてきた。

2000 年時点の人口問題研究所の予測では、現在(2015 年)の総人口は 2,007 人(高齢化率 44%)となっていたが、実際(2015 年 9 月現在)には 2,352 人(高齢化率 39%)という明るい未来を実現することができている。

今後またゆまぬ努力と挑戦により、なりゆきの未来を変えることは可能である。

住民基本台帳における人口の推移



「魅力ある海士のために挑戦するひとづくり」を行い、「だれもが地域に愛着を持ち、生き生きと暮らせる交流盛んなまちづくり」や、「地域の資源を生かし自立を目指すしごとづくり」を実施することで、

① 合計特殊出生率は将来的に 2.0(2005-2010 年の平均は 1.76)

※ 2020 年までの 5 年間は現状の出生数(17 人/年)を維持する。その後 2040 年に向けて 年間 20 人を超える出生数を目指す

② 転出率は 3.0%

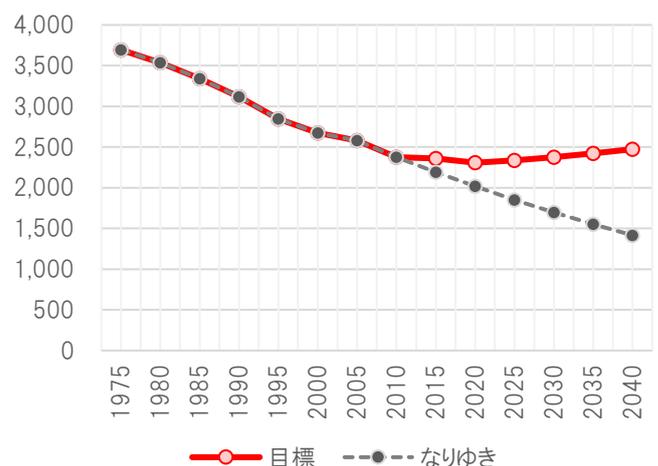
※ 現状 70 名程度の転出者(高校生を除く)を 50 名程度に減らす

③ Uターンをこれまでと同様に年間 100 人程度(2011~2014 年 平均 139 人)となることが期待される。

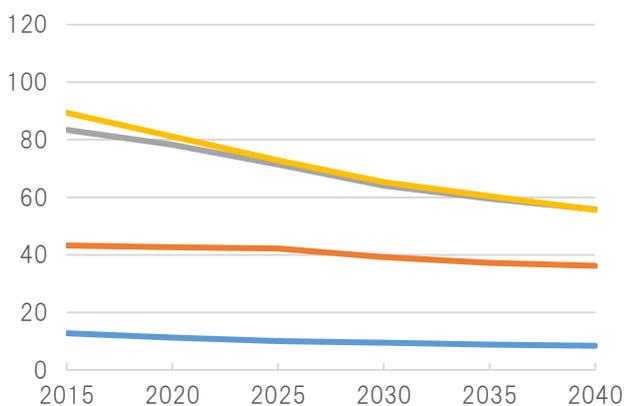
これにより、2040 年の海士町の総人口は 2,475 人となる。これは、国立社会保障・人口問題研究所の総人口の推計値(2010 年の国勢調査のデータがベース)1,416 人と比べて、1,059 人増加である。人口構成もバランスがよくなり、高齢化率も 33%まで改善することが可能となる。(現状:高齢化率 39%(2015 年))。

総人口

	2010 年 国勢調査	2040 年 なりゆき	2040 年 目標
総人口	2,374 人	1,416 人	2,475 人
生まれる 子どもの数	11 人	8 人	25 人
生産年齢 人口	1,201 人	624 人	1,309 人
高齢化率	39%	46%	33%

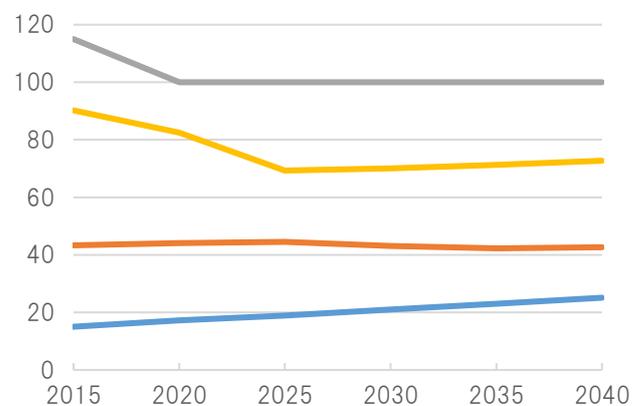


自然増減・社会増減の状況(年間平均)



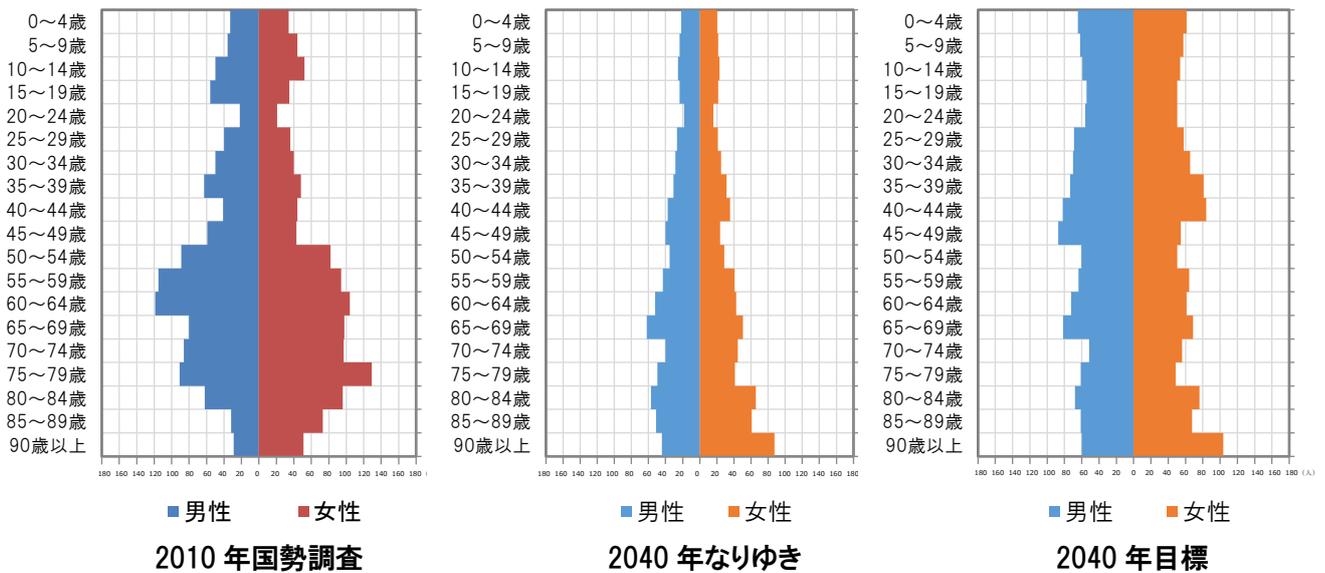
— 出生者数 — 死亡者数
— 転入者数 — 転出者数

なりゆき



— 出生者数 — 死亡者数
— 転入者数 — 転出者数

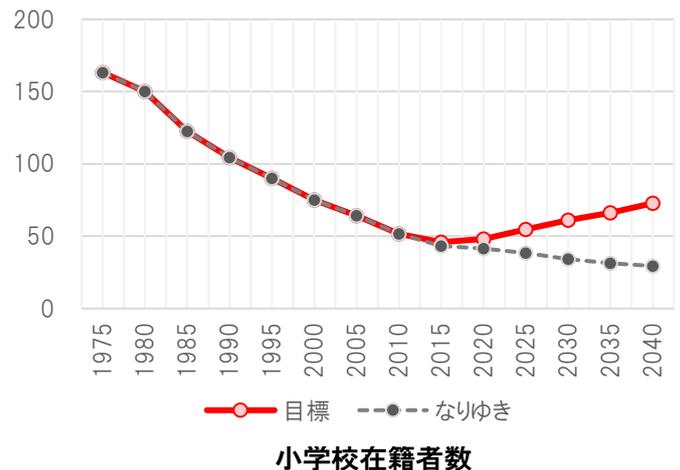
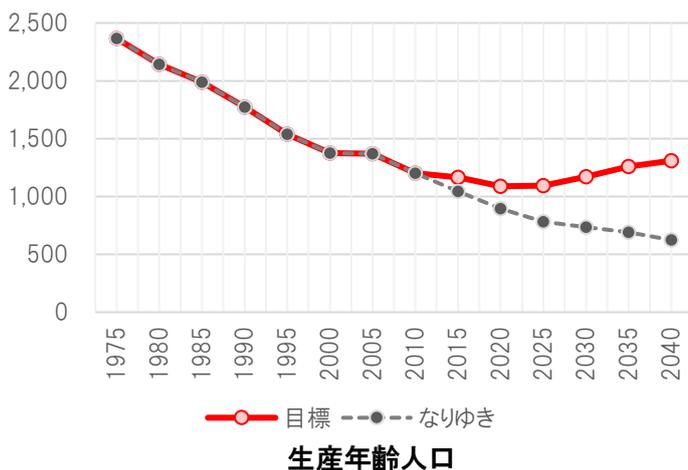
目標



この人口ビジョンの達成により、生産年齢人口も2010年推計値624人と比べて1,309人と、減少を止めることができ、活力ある海士町を維持することができる。それにより、海士町の各集落での多様な祭りや行事などの伝統文化を維持・継承していくことが可能となる。

また、年間に誕生する子どもの数は25人となり、小学校は現行の2校体制の維持ができ、未来の子どもたちに豊かで魅力的な教育環境を提供できる。

高齢化率も33%まで下がり、生産年齢人口や子どもの増加により、高齢化社会を乗り切った先にある、新たな社会モデルを築くことができる。なによりも、生産年齢人口や子どもの数が増加傾向にあることで、未来に希望を持ち続けられる島になる。



そして、海士チャレンジプランをPDCAサイクルの元、確実に推進していくことにより、2020年(次回の国勢調査)における総人口が2,300人を超えるよう、挑戦を続ける。